

放課後等の居場所づくり懇話会」(第1~3回会議)のまとめ

目的: **子どもが健全に生き生きと成長すること**

現在の課題:

- 子ども**
 - 子どもたち同士で遊ばないし、遊べない子どもが増加
 - 外遊びがなく、リフレッシュする場がない
 - 平日の放課後の時間に制約があり、特に高学年は放課後の時間が少ない
 - 塾、習い事などが多く、友達同士で時間を調整できず集団遊びが難しい
 - 生活態度が悪く、反抗したり、集団行動ができない
 - パソコン、テレビゲームでは思い通りになるので、現実社会で思うようにいかないと我慢できない子どもが出てきている
 - 人間関係能力が育っていない子どもたちが多い(いじめ、不登校)
 - 幸せ感がない、孤独感・ストレスを抱える子どもが増加
 - 学校に行きたくないと感じる子どもが増加
 - メディア漬けによる弊害(身体的疲労感がない、食欲がない、光刺激での遅い就寝、短眠状態、朝食欲がない、慢性的な疲労感・イライラ)
 - 子どもたちの環境が一人ひとり異なり、一律に考えることができない
- 保護者等**
 - 児童虐待が増加 ・ だらしない家庭が増加(親が大人になっていない)
 - 保護者が子どもに無関心 ・ 遊びが軽視され、学力が重視されている
 - 誰かに任せられる状況では子どもが育たず、ますます家庭・地域の教育力を失わせる
 - すぐに誰の責任かと問題にする風潮が、子どもに様々な規制をかけている
- 地域**
 - 地域で子どもを把握するのが困難(マンションの増加等)
 - 地域での協力者が減少(都市化) ・ 公園はボール遊び禁止等の制約
 - * 地域で遊べる安全な場所がなく、見守る人もいない
- その他**
 - 安全性の確保 ・ 余裕教室等の確保・利用

目指すべき姿:

- 子どもが楽しく、安全で、異年齢で、集団で、遊びや活動ができること
- 子どもの心が安らげる場所であること
- 子どもが自分の意思で自発的に遊べること
- 子どもが元気に楽しく過ごせ、仲間もでき、安全であること
- 子どもの遊びを活性化して、子どもの健やかな発達を促進する場
- * 子どもの年齢、成長に応じて、子どもの主体性、創造性を活かせること

現在の取り組み:

- 学校**
 - 放課後の遊び場づくり事業(放課後~17時、実施10校:1~6年生)
 - 昼間校庭開放事業(土日祝日・長期休業中、実施140校:1~6年生)
 - 留守家庭子ども会(放課後~18時・土曜日・長期休業中、実施139校:働く保護者1~3年生)
- 公民館**
 - 週5日制に伴い、土曜日にミニバスケやサッカー等スポーツ教室などを実施
 - 毎週土曜日に、地域ボランティアが小学生に英語、茶道、絵画等を教え共に昼食
 - 事前にプログラムを準備せず、集まった子どもでどこに行くかを考え、校区を再発見して遊ばせることで、自主性、自発性を伸ばしている
- その他**
 - 地域、児童委員が催し物や伝統行事など、子どもの健全育成に協力
 - ある校区で、自治協議会が子ども会の予算化することで、自由に多くの子どもが参加できるため、祭りや遊びなど集団でのつながりができている
 - * 空き教室を活用して、乳幼児の公民館サークル等が活動し、授業中に小学生との交流を図ったり、地域が音楽室、家庭科室を利用できる小学校もある(公民館が学校と連絡を密にして、鍵は公民館が管理)

目指すべき姿に向けた取り組み(解決策):

- 遊びの効用で解決**
 - 子どもの遊びは、子どもが自由に、自発的に活動すること、面白さ、楽しさを追求し、喜びの感情をとまなう活動であること、それ自身が目的であること、創造的な活動であること
 - 子どもは遊びによって、社会性や人間関係能力を育む、生きた知恵・生活の知恵を育む、体力・運動能力・器用さを育む、自主性・耐性・創造性・思いやりの心や自尊感情・有能感などを育む、心の緊張を解消し、精神衛生を良くする
 - 場所としては、学校施設だけでなく、公民館なども考えていく
 - 遊びや活動ができる居場所として、場所だけでなく、心の居場所にもつながり、心が安らげることも考える
 - * 学校に残って遊ぶことで集団遊びが可能となり、それをみんなで見守る
- 保護者への教育**
 - 大人になっていない保護者を教育すること
 - 子どもには遊びが大事だということを保護者に理解してもらう
 - * 保護者、地域を含めた大人への啓発、理解が重要
- 地域で見守る**
 - 地域で子どもを見守り育む環境づくり(都市化により地域住民の結びつきが希薄化)
 - 保護者、学校、地域、関係団体、NPO、企業、行政などが連携して取り組み
 - 学校教育だけでは対応に限界があり、地域のボランティアの協力、支援が必要
 - 行政、公民館、地域での取組を、総合的にそれぞれの役割を考え、支援できる体制を考える
 - 子どもの生活基盤を大事にして、子どもの遊びや成長を考えていく
 - 将来子どもに携わる予定の大学生に参加してもらおう * 地域とのつながりを念頭に置く
 - 地域での様々な活動を話し合える場が必要 * 子どもも親も育つような状況づくりが必要
 - * 地域が育つと学校も安心し、信用してくれるので、みんなが成長すべき
 - * 親はもちろんのこと、地域で子どもを育てるという意識改革が必要
 - * 地域のつながりの契機となるため、運営委員会を作り、そこが基本的な事を決める
- 関係者の連携・協力**
 - 学校施設は、学校の余裕教室や体育館、音楽室、図工室なども含めて考える
 - 外遊びだけでなく屋内遊びも考慮する * 言葉や読書、宿題など遊び以外も考える
 - * 異年齢での集団遊びを活性化させるために、基本的なプログラムを入れる
 - * 現在の放課後の遊び場づくり事業を発展させて考える
 - * 子どもにとって魅力的な居場所を作る(そうすれば必ず子どもは集まる)
 - 子どもがどのような遊びをしたいかを考える
- 場所、内容**
 - 子どものことを良く分かり、仲間を見つけて、まとめることができる人が関わる
 - ある程度技量を持ったコーディネーターが関わる(そのための人材育成も必要)
 - * 縦のつながりの中で、子どものリーダーを作る
 - * 全校区に公民館があり、地域のおける役割が大きいことを踏まえる
 - * 今あるものをうまくつないで活かす
 - * 留守家庭子ども会で良い状況が作られているので、同じスペースで共に過ごす工夫を考える
 - * ほとんどの小学校に留守家庭子ども会があり、蓄積もあるので、積み上げた良い点を活かす
 - * 留守家庭子ども会の子どものと分けることなく、みんな一緒に遊ぶことで育っていく
- 人材**
 - 全校区に公民館があり、地域のおける役割が大きいことを踏まえる
 - 今あるものをうまくつないで活かす
 - 留守家庭子ども会で良い状況が作られているので、同じスペースで共に過ごす工夫を考える
 - ほとんどの小学校に留守家庭子ども会があり、蓄積もあるので、積み上げた良い点を活かす
 - 留守家庭子ども会の子どものと分けることなく、みんな一緒に遊ぶことで育っていく
- 今あるものを活用**
 - 全校区に公民館があり、地域のおける役割が大きいことを踏まえる
 - 今あるものをうまくつないで活かす
 - 留守家庭子ども会で良い状況が作られているので、同じスペースで共に過ごす工夫を考える
 - ほとんどの小学校に留守家庭子ども会があり、蓄積もあるので、積み上げた良い点を活かす
 - 留守家庭子ども会の子どものと分けることなく、みんな一緒に遊ぶことで育っていく

実現に向けての課題:

- 遊びのプログラムはどのようなものがあるのか。集団をどのようにつなぎ、仲間意識を高め、どう遊ばせるのか。
- 学校でも地域でもどこでも遊べない子どもの対応(どこにも居場所がない子ども)
- 子ども同士でのどのように学びあうのか(高学年と低学年、中高生と小学生など)
- どのように指導者づくりを行うのか、また指導のあり方
- 関係者、団体の連携の方策 ・ どのようにして安全性の確保するのか
- 子どもがのびのびと遊ぶ場をつくるとなると、安全性の面から大勢の人数が必要
- * 子どもの年齢、発達に応じた遊びや生活ができる体制をどのように作るのか
- * コーディネーターなどの人づくりや人材育成をどうするのか
- * 全校生徒が参加できる学校のキャパシティをどう確保するのか
- * 放課後の遊び場づくり事業では全員が利用しておらず、参加者も少ないので、どうやって魅力のある居場所を作るのか(始めた当初は5~6年生も大勢参加していた)
- * 放課後だけでなく、土曜日、長期休業中に実施した方がいいのか
- * 保護者のボランティアをどうやって増やすのか。

*(アスタリスク)は、第3回会議での意見を追加したものです。